

横浜駅で「オレンジリボン運動」



キワニスクラブ 児童虐待防止訴え

公益的活動に取り組み、子供への支援に特に力を入れている国際社会奉仕団体「横浜キワニスクラブ」(杉田義朗会長)は、横浜駅西口で児童虐待防止を推進する「オレンジリボン運動」の一環として、啓発活動を行った一写真。

オレンジリボンを身につけ、同系色のジャンパーを着た同クラブのメンバー約10人が、リボンのロゴマークが入ったチラシやマスク約700個を歩行者らに配布し、児童虐待防止に向けた取り組みの強化などへの理解を求めた。新型コロナウイルス禍にあることを踏まえ、メンバーは全員、マスクと手袋をつけて活動に当たった。

オレンジリボン運動は平成16年、栃木県で幼い兄弟が同居していた男の暴力によって死亡した児童虐待事件を受けて始まり、全国に拡大した。11月が運動月間となっている。